景観観察研究会

筏井宏実

寄生虫学者。北里大学獣医学部准教授。岐 阜大学大学院連合獣医学研究科修了、博士 (獣医学)。専門は、主に寄生性原虫と媒介生 物の相互関係。これまでにマラリア、 ア症に関する研究を中心に行う。国内外の 寄生虫学・獣医学系ジャーナルでの論文発表、 学会での口頭発表など多数。最近の記事執 筆に「One Healthの概念と人獣共通感染 症:感染症と付き合うために理解しておくこ と」(『ICNR』、2020年)など。

伊勢武史

生態学者。京都大学フィールド科学教育研 究センター准教授。ハーバード大学大<mark>学院進</mark> 化・個体生物学課程修了(Ph.D.)。専門は森林 生態学とコンピュータシミュレーション。地球 温暖化から人類の進化まで、人と自然の関 わりを考えることがライフワーク。主な単著 に『学んでみると生態学はおもしろい』(ベレ出 版、2013年)、『生態学者の目のツケドコロ』(ベ レ出版、2021年)など。

板津悟

摺師(プリンター)。板津石版画工房(イタヅ・リト グラフィック) 主宰。 タマリンド・リトグラフ研究 所 (ニューメキシコ大学) でリトグラフを学ぶ。 -般印刷に用いられていた石版印刷の版画と しての美術表現の可能性を探究し、アーティ ストとのコラボレーションで魅力的な作品 制作を行う。主な展覧会に「版画工房の仕事 『Footprints』」(カスヤの森現代美術館、2016年)

O JUN

画家。東京藝術大学大学院美術研究科油画 専攻修士課程修了。絵画を中心に、描くため の画材や素材・方法を様々に試みている。国 内外で個展・グループ展など多数。国際芸術 センター青森では、2016年に個展「まんまん ちゃん、あん」を開催した。作品集に『OJUN 1996-2007 (赤々舎, 2007年), 『1982-2013 O JUN 描く児』(青幻社、2013年)、『途中の造 物』(ミヅマアートギャラリー、2019年)など。

大庭ゆりか

生態学者。京都大学フィールド科学教育研究 センター森林生態系部門研究員。広島大学 大学院リーディングプログラム放射線災害復 興を推進するフェニックスリーダー育成プロ グラム修了、博士(学術)。専門は、森林生態 学、環境科学。異なる生態系間の相互作用や 生物と環境の関係性の解明をテーマに研究 を行っている。

新津保建秀

写真家。東京藝術大学大学院美術研究科油 画専攻修了、博士(美術)。写真、ドローイング、 映像、フィールドレコーディングなどによる制 作を行う。主な作品集に、池上高志との共 作『Rugged TimeScape』(FOIL、2010年)、 『Spring Ephemeral』(FOIL、2011年)、『\風 景』(角川書店、2012年)など。近作に、詩人の 立原道造(1914-1939)が生前に構想した別 荘を主題とした「往還の風景 別所沼公園」 (さいたま国際芸術祭2020、2020年)など。

山本修路

作家。多摩美術大学絵画学科油画車攻卒業。 庭師のバックグラウンドを持ちながら、「大 自然と人間の関わり」をテーマに日本各地で フィールドワークを続け、農作から携わる酒 造・メープルシロップづくりから、林業につい ての考察など、その活動は多岐にわたる。青 森県内での活動として、十和田市現代美術館 に彫刻作品を恒久設置(2008年)、「Aomori Spring Sprout展 一青森 春に芽吹く光一」(青 森県立美術館県民ギャラリー、2022年)に参加。

コラボレーター

北里大学獣医学部 獣医寄生虫学研究室

獣医寄生虫学研究室は、北里大学十和田キャ ンパス創立時(1966年)に開校された家畜病 理・寄生虫学研究室を母体とし、1981年に獣 医寄生虫学研究室として新設。自然豊かな 十和田市という立地を活かし、野生動物の保 有する寄生虫および寄生虫感染症の媒介生 物について、その生態や宿主に及ぼす影響 を研究している。教員に筏井宏実准教授、草 木迫浩大助教。

木工房じゅげむ主宰。会社員を定年退職後、 青森市沢山で里山の木や植物を育てながら 木製品を製作する工房を営み、スツールや キッチングッズなど普段使いの木製品を自作 し、販売も手がけている。東北各地で開催さ れているクラフトフェア等へ精力的に参加し

藏田典子

京都大学大学院人間·環境学研究科博士後 期課程。人文地理学を専門とし、場所への 愛着や喪失といった人の思いと場所の関係 をテーマに調査・研究を行う。山口県の無形 民俗文化財「鷺の舞」の伝統を守る頭屋に生 まれ、現在では、江戸時代から頭屋を受け 継ぐ材木屋の家屋や倉庫などを利用し、伝 統文化や地域資源を美術領域で再活用する 「Do a Front」の活動に携わっている。

北里大学大学院獸医学系研究科獸医学專攻 博士課程1年、獣医寄生虫学研究室所属。野 生動物の寄生虫相およびその生態について、 吸虫類を主な対象として研究を行う。十和田 市現代美術館サポーターとして「『地域アート』はどこにある?」プロジェクトなどに参加。 廃棄羊毛を使用した自身の制作活動をもと に展示、講演、記事執筆も行う。

東京大学大学院工学系研究科先端学際工学 専攻博士課程3年。ロボティック生命光学分 野(太田研究室)所属。医療や創薬に役立つよ う、人間の細胞一つ一つからより多くの情報 を引き出してくれる新しいテクノロジーの開 発を行う。他にも、生態学や古生物学、脳神 経科学など、幅広く生物学の研究に携わって

きた。その一方、美術にも強い関心があり、

スペシャルゲスト

制作・展示活動を続けている。

理学博士。京都大学大学院理学研究科教授 同研究科長・理学部長を経て、2020年まで第 26代京都大学総長。人類進化論専攻。屋久

島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴ リラの社会生態学的研究に従事。日本霊長類 学会会長、国際霊長類学会会長、日本学術 会議会長、総合科学技術・イノベーション会議 議員を歴任。現在、総合地球環境学研究所 所長、環境省中央環境審議会委員を務める。 著書に『人生で大事なことはみんなゴリラか

ら教わった』(家の光協会、2020年)など多数。

〒030-0134 青森市合子沢字山崎152-6 52-6 Yamazaki, Goshizawa, Aomori #030-0134 Tel 017-764-5200(受付 9:00-17:00)







- 〇 IUN《石鏡のホテル》カンバスに油彩、2021年「撮影松見拓也」
- 4 板津悟「十和田湖 | 昭和29年印刷発行地図を石版石に復元、2022年
- 5 大庭ゆりか《コナラ》2022年
- 7 山本修路《Bonsai Forest》2014年
- 表紙 OJUN《校章図》2022年

主催 | 青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC]

- 協力 | AIRS(アーティスト・イン・レジデンス・サポーターズ)、
- 後援 | NHK青森放送局、青森テレビ、
- RAB青森放送、青森朝日放送、 青森ケーブルテレビ、エフエム青森、ABHラジオ、
- ミュニティラジオ局BeFM、東奥日報社、 陸奥新報社、デーリー東北新聞社
- 企画|景観観察研究会+慶野結香[ACAC]

Organizer Aomori Contemporary Art Centre.

Aomori Public University

Cooperation AIRS (Artist in Residence Supporters) Nominal Support NHK Aomori Broadcasting Station, Aomori Television Broadcasting Co., Ltd., omori Broadcasting Corporation, Asahi Television, Aomori Fm Broadcasting, ABH Radio, BeFM, The To-o Nippo Press Co., MUTUSINPOU o., Ltd., The Dairy-Tohoku Shimbun Inc Planning The Society for Landscape Observation and Research, KEINO Yuka [ACAC Curator]

青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC] Aomori Contemporary Art Centre, Aomori Public University

Fax 017-764-5201 E-mail acac-1@acac-aomori.ip

- ●JR青森駅からJRバスまたは青森市営バスにて 約40分。「モヤヒルズ、青森公立大学」行き乗車、
- ●青森自動車道 青森中央I.C.から約5km

- Bus (from Aomori Station): JR Bus or City Bus for Aomori Public University (Aomori Koritsu Daigaku) approximatery 40mins
- Car: Approximatery 5km from Aomori Chuo I.C.,
- Taxi (from Aomori Airport): approximatery 20mins







筏井宏実 伊勢武史 板津悟 **O JUN** 大庭ゆりか 新津保建秀 山本修路

IKADAI Hiromi ITAZU Satoru OIUN **OBA Yurika** SHINTSUBO Kenshu YAMAMOTO Shuii

> The Society for Landscape Observation and Research "Hakkoda Academy"





2022年7月16日(土)—9月25日(日)

10:00-18:00 | 会期中無休 | 入場無料

青森公立大学 国際芸術センター青森[ACAC]

展示棟ギャラリーA,B

July 16 (Sat) — September 25 (Sun), 2022 10:00 – 18:00 Open every day during exhibition, Admission free Aomori Contemporary Art Centre, Aomori Public University Gallery A & B. Exhibition Hall



学生为岩

古来、芸術と科学は一体であり、僕ら人間の生きる術であった。 人は進化の過程で自然を観察し、その成果を表現する力を獲得 した。たとえば、うつくしい動物を壁画に描きながめること。そう やって僕らは自然のことを四六時中考えたり話したりすることで、 狩りに成功し、危険を回避し、後継者を養成してきたことだろう。 しかしいつしか、僕らは自然観察の能力を忘れ、日々の忙しさと情 報の海におぼれる現代の暮らしを送るようになった。

だから僕ら景観観察研究会は、いまここ青森の地で、自然につい て調べ、体験し、表現することをはじめた。芸術家と科学者がフ ラットな関係性で、こころにつき動かされるままに活動することに した。ここが、大自然と人間のことを考えるスタートラインである。

景観観察研究会

From the beginning, art and science have existed as one, the means of living for us as humans. Through evolution, man has acquired the ability to observe nature and express the results of these observations – an example being the depiction and appreciation of beautiful animals in cave paintings. In this way, by constantly thinking and talking about nature, we have successfully hunted, avoided danger, and trained our descendants. However, we have lost our ability to observe nature and have come to lead modern lives, drowning in a sea of information and the busyness of daily life. It is for this reason that we, The Society for Landscape Observation and Research, began investigating, experiencing, and expressing nature here in Aomori. As artists and scientists, we have decided to work as equals, following our hearts as they move us. This is the starting line for thinking about nature and humanity.

— The Society for Landscape Observation and Research

景観観察研究会(景観研)は、絵画、版画、写真、フィールドワークをもとにした 活動などを行うアーティスト4名(O JUN、板津悟、新津保建秀、山本修路)と、寄 生虫学や森林生態学を専門に自然をフィールドとする研究者3名(筏井宏実、 伊勢武史、大庭ゆりか)からなる、自然と人間の連環について考え、実践していく ための共同体(コレクティブ)です。筏井宏実と山本修路は青森県十和田市に拠 点があり、OJUNと青森公立大学および国際芸術センター青森との縁も深い ことから、「八甲田大学校」の計画は、2018年頃より動きはじめました。 この夏から秋のはじめにかけて、八甲田連峰のふもと、自然に囲まれた国際 芸術センター青森の環境を活かしながら、景観研メンバーたちは作品制作や ワークショップ、トークなどの活動を日々繰り広げます。それぞれの専門性を 土台としつつも、この場所を共有する人々との対話や協働、誰かがいた・なに かがあった痕跡や記憶、ミクロとマクロな視点の往還運動のなかから、自然界 の複雑さや創造性を改めて知ることができたらと考えています。芸術や科学 の別なく、世界を能動的に経験することで、歴史や経済、環境や進化まです べてが相互に関連し、そこから生成された知が、私たちの生きる糧になって いくことを願っています。

The Society for Landscape Observation and Research (Keikanken) is a collective for contemplating and implementing the link between nature and humans. It consists of four artists (O JUN, ITAZU Satoru, SHINTSUBO Kenshu, and YAMAMOTO Shuii) who are engaged in painting, printmaking, photography, and fieldwork-based activities, and three natural environment researchers (IKADAI Hiromi, ISE Takeshi, and OBA Yurika) who are specialists in parasitology and forest ecology. Ikadai and Yamamoto are based in Towada City, Aomori Prefecture, and with O JUN's close ties to Aomori Public University and the Aomori Contemporary Art Center, plans for "Hakkoda Academy' began to take shape around 2018.

From this summer through to early fall, the members of *Keikanken* will spend each day taking advantage of the environment around Aomori Contemporary Art Centre, which is surrounded by nature at the foot of the Hakkoda mountain range. They will create artworks, hold workshops, and give talks, among other activities. While each member's expertise is the foundation of their work, we hope to gain a new appreciation of the complexity and creativity of the natural world through dialogue and collaboration with the people who share this space, the traces and memories of what once was, and the back-and-forth movement between micro and macro perspectives. By actively experiencing the world, whether through art or science, everything, from history and economics to the environment and evolution, becomes interconnected. We hope the knowledge we generate from this approach will nourish our lives.

八甲田大学校 プログラム一覧

ギャラリーでは、景観研メンバーによる作品、 プロジェクトの展示を見ることができます。そ れに加え、公開制作、ワークショップ、トーク などを行います。一緒になにかをつくったり しながら、「自然」をキーワードに様々なこと を体験しましょう。

- ●要申込のイベントは応募者多数の場合、先着順で ご案内します。
- ●予定されている催事、イベントはやむを得ず変更 する場合があります、ご了承ください。最新情報は 当館ホームページをご覧ください。

申込用QRコード →→→→→→



景観研による「八甲田大学校」案内

日時 2022年7月16日(土)14:30-16:30 会場 展示棟ギャラリーA入口集合 [予約不要 入退場自由]

景観観察研究会のメンバーが一堂に会し、それぞ れの作品、プロジェクトについて2-3人ずつでお話 しするギャラリーツアーです。ACACに滞在し、周囲 の森や八甲田の環境、青森の自然から感じたことに ついても聞けるかもしれません。



O JUN 公開制作 「そうぐう――図画工作」

<u>日時</u> 2022年7月16日(土)—9月25日(日) 10:00-18:00(72日間) : 会場 展示棟ギャラリーA

画家のOJUNが会期中、油彩、クレヨン、鉛筆など で絵を描いたり、立体制作の様子をギャラリー内 で公開します。会場にいる画家に、ぜひ絵やその方 法、画材などについて聞いてみてください。絵を描 く人と絵を見る人が、この場所で自然といろいろな モノやコトに遭遇できたらいいなと思っています。



大庭ゆりか ワークショップ 「つくって学ぼう、葉っぱのデザイン」

<u>日時 2022年7月16日(土)10:00-12:00</u> 会場 創作棟ワークショップスタジオ 対象 小学校3年生以上 定員 10人[要予約] 申込締切 7月11日(月)

葉っぱは何のためにある? 普段は見ることのできな い葉っぱの中を観察しながら、 葉っぱについて考えてみましょう。 葉脈標本(スケルトンリーフ)をつく りながら、葉っぱの構造や機能、 植物の生態を学びます。

新津保建秀 ワークショップ 「記憶を束ねる」

日時 2022年7月17日(日)、18日(月·祝) 10:00-15:00(2日間連続ワークショップ) 会場 展示棟ギャラリーA、青森市沢山ほか 持ち物 昼食、カメラ (カメラ機能のある電子機器なども可)

対象写真撮影や、編集作業の経験がある方 定員 8人[要予約]

申込締切 7月4日(月)

人は経験したことやその記憶を、どのようにイメー ジとして捉えようとするのでしょうか。イメージは編 集という取捨選択行為の繰り返しによって、いかに 結実するのでしょうか。自らの作品集だけでなく、 様々な人との協働によって多数の書籍を世に送り 出してきた新津保と一緒に、里山に暮らしながら木 工房を営む熊谷裕を訪ね、そこでの経験を写真に 撮り、他の参加者との対話を行いながら小冊子を つくります。

山本修路 ワークショップ 「樹木学――鉢植えをつくろう」

日時 ①2022年7月31日(日)と8月14日(日) ②9月3日(土)と17日(土) 14:30-17:00(2日間ワークショップ) 会場 展示棟ギャラリーA 対象 小学校5年生以上 定員 各回15人[要予約] 申込締切 ①=7月25日(月) ②=8月29日(月)

今回の展示に使われている木材の端材で実生(小さ い植物)を育てられる鉢をつくります。また、木材でつ くった鉢はACACの周囲の森で採取できる土から つくられた顔料で彩色します。鉢づくりから植栽ま でを手作業で行うことで、自然を身近に感じながら、 ACACの森のミニチュアを持ち帰ってもらいます。



筏井研究室 ワークショップ 「北里『八甲田大学校』分校: 寄生虫学実習 |

日時 2022年8月11日(木·祝)、25日(木)、 9月8日(木)、21日(水)14:30-16:30 会場 展示棟ギャラリーA 対象 どなたでも 定員 各回5組程度[要予約] 申込締切 各回実施週の月曜日。 8月8日(月)、22日(月)、9月5日(月)、19日(月・祝)

寄生虫は身近な生き物の中に息づいています。用水 路の巻貝、池に泳ぐ魚、田んぼの蛙…。 ちょっぴり きもちわるい? かわいい? 寄生虫にふれる実習を、 ギャラリー内の実習室にて行います。生き物の「中」 の生き物との出会い、経験してみませんか? 8月11日、9月8日 生きた寄生虫をルーペや顕微鏡

8月25日、9月21日 寄生虫の標本を用いてその「か たち」をスケッチで表現します。



板津悟 ワークショップ 「八甲田山、積層する地図

<u>日時</u> 2022年8月20日(土)、21日(日) 10:30-17:30(1日完結ワークショップ) 会場 創作棟ワークショップスタジオ、銅版画室 <u>持ち物</u> 昼食、エプロンもしくは汚れてもよい服装 対象 小学校5年生以上 定員 各日8人[要予約] 申込締切 8月15日(月)

32分割で大きく刷られた「八甲田山地図」(応急修正 版、1953年)の上に、ワークショップの参加者が描い た絵を刷り重ねて、リトグラフの摺師である板津と アーティストである参加者とのコラボレーション作品 をつくります。リトグラフは少し複雑な技法ですが、 ステップごとに進めるので未経験の方でも大丈夫 です。 絵のサイズは30×40cm。 制作されたリトグ ラフは、会期中に展示されます。

伊勢武史 ワークショップ 「デジタル自然観察 |

<u>日時</u> 2022年9月23日(金·祝)10:30-12:30 会場 展示棟ギャラリーA 対象 小学校5年生以上 定員 10人程度[要予約] 申込締切 9月19日(月·祝)

スマホやパソコンなど、身 近なデジタル機材を使う と自然観察の世界が広が ります。このワークショッ プで画像加工技術などの 新しい表現に触れ、自分 のアイデアを形にしてみま しょう。身近な自然が違っ て見えるかもしれません。



山極壽一 特別講演-景観研メンバーとのトーク

日時 2022年9月24日(土) 14:30-16:30 会場 創作棟講義室 対象 どなたでも 定員 40人[要予約] 申込締切 9月19日(月·祝)

40年以上アフリカでゴリラの研究を続け、人間や その社会をも含む、生物を取りまく地球環境につい て本質的な考察を行っている山極壽一総合地球環 境学研究所 所長。日本におけるゴリラ研究の第一 人者に、景観観察研究会の実践から見えてくること をご講演いただいたあと、景観研メンバーとトーク を行います。

イラスト: 山本修路

イベントスケジュール

7月16日[±]	10:00-	С
	14:30-	Α
7月17日[日]	10:00-	D [第1回]
7月18日[月·祝]	10:00-	D [第2回]
7月23日 [±]	10:30-	E [第1回]
7月24日[日]	10:30-	E [第2回]
7月31日[8]	14:30-	F [①第1回]
8月6日[±]	10:30-	E [第3回]
8月7日[日]	10:30-	E [第4回]
8月11日[木·祝]	14:30-	G
8月14日[目]	14:30-	F [①第2回]
8月20日[±]	10:30-	Н
8月21日[目]	10:30-	Н
8月25日[木]	14:30-	G
9月3日[±]	14:30-	F [②第1回]
9月8日[木]	14:30-	G
9月17日[±]	14:30-	F [②第2回]
9月21日[*]	14:30-	G
9月23日[金·祝]	10:30-	I
9月24日[±]	14:30-	J

視覚者現学研究室(OJUN+山下港) 夏季ゼミナール

「見えない世界を冒険する ----<mark>記録集と</mark>黒板画の制作 |

日時 2022年7月23日(土)、24日(日)、 8月6日(土)、7日(日) 10:30-13:00(4日間連続ワークショップ) 会場 ACACの施設とその周辺 持ち物 鉛筆、色鉛筆、水彩、 マーカーなど、好きな描画材 対象 中学生以上 定員 15人[要予約] 申込締切 7月19日(火)

自分のまわりにある見慣れたモノや自然を、肉眼や 顕微鏡を通して見てみましょう。このあらためて見 る体験によって、自分も含めた世界の様子や状態が どのように見えるでしょうか。見たモノの姿を写生し たり、黒板に描いたり、撮影したり、私たちにとって 「見える」とはどのようなことなのか、 画家や研究者 と一緒に考えていきます。最後にそれぞれが見たモ ノを記録した一冊の本を制作します。